

各位

全4ページ
登録速報(2026-098)
2026年7月22日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記のとおりペントキサゾンの再評価が終了になりましたので、ご連絡します。
再評価終了年月日：2026年7月22日

記

1. 農薬の種類、登録番号及び名称

種類：ピリミノバックメチル・ブロモブチド・ベンスルフロンメチル・
ペントキサゾン粒剤

登録番号：第24376号

名称：トップガンR1キロ粒剤

2. 農薬の物理的・化学的性状

類白色細粒

3. 農薬の有効成分の種類及び含有濃度

メチル=2-(4,6-ジメチルピリミジン-2-イルオキシ)-6-(1-メチルイミノエチル)ベンゾエート	0.45%
(RS)-2-ブロモ-N-(α , α -ジメチルベンジル)-3,3-ジメチルブチルアミド	9.0%
メチル= α -(4,6-ジメチルピリミジン-2-イルカルバモイルスルファモイル)-o-トルアート	0.75%
3-(4-クロロ-5-シクロペンチルオキシ-2-フルオロフェニル)-5-イソプロピルピリジン	2.0%

4. 農薬のその他の成分の種類及び含有濃度(15に掲げる事項を除く。)

鉱物質微粉 等 87.8%

5. 農薬の適用病害虫の範囲、使用方法及び使用期限

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 マツバ イ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クロガワイ シズイ アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	1kg/10a	1 回	田植同時散布 機で施用
		移植直後～ ルビエ3 葉期 但し、 移植後 30 日まで			湛水散布
直播水稻	一年生雑草 マツバ イ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期～ ルビエ3 葉期 但し、 収穫 90 日前まで			

ピリミノバックメチルを含む農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

使用期限：5 年

6. 農薬の使用上の注意事項（8に掲げる事項を除く。）

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヘラオモダカは2葉期まで、オモダカ、クログワイは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- (3) オモダカ、クログワイ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (4) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (5) 散布の際は、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- (6) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ①砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）。
 - ②軟弱苗を移植した水田。
 - ③極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田。
- (7) 直播水稻に使用する場合は以下に注意すること。
 - ①発芽直後の稲に対して薬害が生じるおそれがあるので、適切な覆土を行い、稲の1葉期以降に散布すること。
 - ②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - ③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。
- (8) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (9) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- (10) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (11) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- (12) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

7. 人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法

(1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

ア 農薬使用者に係る注意事項

① 毒性情報

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがある。

(2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

ア 農薬使用者に係る被害防止方法

① 防護装備

[薬剤調製者]

移植水稻（田植同時散布機で施用）：不浸透性手袋

[散布者]

移植水稻（田植同時散布機で施用）：不浸透性手袋

8. 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨

(1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

(2) 散布後は水管理に注意すること。

(3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

9. 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨
通常的使用方法ではその該当がない。

10. 農薬の貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

以上